



ごあいさつ
理事長 足達 秀夫

平素より、私ども四国労働金庫（四国ろうきん）にご愛顧を賜りまして、誠にありがとうございます。

四国労働金庫は誕生から7年が経過しました。この間、地域における唯一の働く人々の福祉金融機関として、法令等遵守、内部統制システムの強化を図りつつ、会員・勤労者から喜ばれる商品・サービスの提供、成果還元施策の充実などに役職員一丸となって取り組んでまいりました。おかげさまで預金量5,200億円、融資量3,300億円の金庫に成長することができました。これも一重に会員・間接構成員の皆様方の温かいご支援の賜と厚くお礼申し上げます。

このディスクロージャー誌「2008四国ろうきんの現況」は、こうした四国ろうきんの機能や役割、最近の業況等を取りまとめたものです。本誌により私どもに対するご理解を一層深めていただければ幸いに存じます。

さて、サブプライム問題に端を発した世界的な金融市場の変動と原油等資源の高騰は、日本経済の先行きに対する不透明感を増幅するだけでなく、物価高騰によって勤労者の生活にも大きな影響を与えています。

また、雇用労働者の三人に一人が非正規雇用となっていることから、働く人々の間においても所得格差が拡大し、固定化されようとしています。この間の企業業績の回復は必ずしも勤労者の労働条件の改善や家計部門に波及しておらず、年金や医療に対する不信・不満は募るばかりであります。

このような経営環境の中、当金庫では、2008年度より「第4期中期経営計画」がスタートしています。この中期経営計画は、労働金庫の創設の理念や意義を再確認し、四国労金が果たすべき役割と任務を明確にして、利用者のために最高・最良のサービスを提供することができる協同組織金融機関（仮称「日本労働金庫」）を創設するための最終計画と位置づけております。そのためにも、より強固な経営基盤を確立し、安心・安全・信頼のできる金融機関に向けて総力をあげて取り組む所存でございます。

“ずっと永く 四国ろうきん” 今後とも、一層のご理解、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2008年7月